# TOPに聞く！

# 頭取の企業訪問

FFGのお取引先企業をご紹介します。

## 株式会社 日本無線電機サービス社

代表取締役社長 近藤 髙一郎氏

取引店　福岡銀行　下関支店

## 宮島醤油 株式会社

代表取締役社長 宮島 清一氏

取引店　福岡銀行　唐津支店

## 織月酒造 株式会社

代表取締役社長 堤 正博氏

取引店　熊本ファミリー銀行　人吉支店

## 株式会社 三浦工業所

代表取締役社長 三浦 学氏

取引店　親和銀行　浜町支店
福岡銀行　長崎支店

TOPに聞く!

# 株式会社 日本無線電機サービス社

代表取締役社長

# 近藤 髙一郎氏

■設　　立：1948年８月
■所 在 地：山口県下関市　　■資 本 金：1,000万円
■従 業 員：約420名（グループ全体）
■事業内容：船舶及び産業用監視・制御システム、電気・電子応用機器の製造
■事業拠点：山口県下関市（本社、豊浦製作所）、東京都港区（支社）、オランダ・シンガポール（現地法人）、上海（駐在所）

## 漁船用無線機製造からの出発

－今から62年前の1948年（昭和23年）、当社は漁船用の無線機メーカーとして神戸で産声を上げました。当時は戦後間もないこともあり、深刻な食料不足の状況が続いていました。その頃、大手無線メーカーに勤務していた私の父は、食料不足解消のため漁業が復興するにあたり、漁船に搭載する無線機の需要が高まると考え、それまでの経験を生かそうと当社を立ち上げました。翌49年には、「漁船が一番集まる場所」を求め、現在の本社がある下関市に会社を移転したところ、その読みが的中し、全国各地から船舶無線の注文が殺到しました。

60年代に入り「獲る漁業」から「育てる漁業」への政策転換が始まったこともあって、大型船舶の自動化拡大に伴い、船舶の安定的な航行を支える為の制御機器や動力分野に進出しました。

船舶用のシステムは、限られたスペース内に構築する為、高い技術が必要とされます。当社では、常に時代の最先端技術を開発しながら、世界中の海で活躍する船舶の安全と効率的な運行に貢献することを目標としています。

## 一隻一隻にすべての責任をもって

－一概に「船舶」と言っても様々な種類があります。フェリーやクルーズ船などの客船、液化天然ガス（LNG）運搬船、コンテナ船、タンカー、自動車運搬船、鉄鉱石運搬船、調査船など多種多様であり、関連する船級や規格もそれぞれ異なっています。

当社では、このような多様な船舶にも、種類ごとに最適な製品がご提供出来るよう、設計・開発から製作、納入を行っています。ハードからソフトまで一貫して自社開発を行うことで、お客様から頂いたご要望も、いち早く製品に反映させることが可能です。

また、ＩＳＯ9001を取得し、受注から生産、アフターサービスまで国際規格に適合したシステムで生産しています。更に、船級協会が認める品質管理体制を有する事業所としての承認も取得しており、常にお客様に安全で安定した品質の製品を提供出来る体制を構築しています。これらにより、長期間稼動し続ける船舶に、部品の供給と最適なメンテナンスの提供が可能となっており、海上輸送の安全と効率化、物資流通の円滑化にも寄与しています。

## 超ハイテク船に計装・動力システムを納入している世界唯一のメーカー

－現在、世界で最も進んだハイテク船と言われる液化天然ガス（LNG）運搬船向けの計装および動力システムにおいて、当社はそれぞれの最先端の製品を同時に納入することが出来る世界唯一のメーカーです。LNG運搬船向けの計装システムとしては世界初の統合制御システムである「OASＩＳ（商品名）」を、動力システムでは、船舶に搭載出来る小型の高圧配電盤を開発し、LNG船向けに納入しています。

また、当社は環境への負荷軽減の為にも様々な取り組みを行っています。製造工程においては、二酸化炭素や窒素酸化物の発生が少ないガスヒートポンプによる空調を採用し、塗装工程を従来の溶剤塗装から環境負荷の少ない粉末塗装に変更するなど、環境負荷低減に努めています。更に2011年にはＩＳＯ14001の認証取得を計画しています。製品としては、停泊中の船舶による大気汚染を防止する為、陸上からの電源供給システムも他社に先駆けて開発し、平成22年度科学技術分野の文部科学大臣表彰において「科学技術賞（技術部門）」を受賞しました。これからもお客様のご要望やご期待にお応え出来るマリンオートメーションのオンリーワン企業を目指して参ります。

## 現場力の向上を目指して

－人材育成については、技術継承を重視しており、部門毎に、コストダウンや品質改善計画、各人の業務スキルを一覧表にしたスキルマップ等をVM（ビジュアルマ

ネジメント)ボードに掲示して情報を共有化しています。また、こうした「見える化」への取り組みにより現場の改善にも繋がっています。

当社の特徴として、従業員全体の約４割を女性が占め、エンジニアや通訳等総合職でも活躍しています。しかし、業務に習熟した女性従業員が結婚や出産を機に退職するケースが多く、これまで経営上の課題となっていました。この課題を少しでも解消する為、産休後も復帰しやすいよう2008年に豊浦製作所内に託児所「ラッコランド」を開設して、子育てをしながら働く女性を積極的に支援し安心して働ける環境をつくっています。

### 「前を売る」「後を売る」<br>～新たな事業への注力～

－現在、当社が注力している課題として､「前を売る」「後を売る」があります。

「前を売る」とは、最終ユーザーである海運会社等、顧客へのマーケティング活動のことを指しており、「後を売る」とは、就航済みの船向け商品やサービスの拡販を指しています。

具体的には、「前を売る」としては、ブランドイメージの向上やタイムリーな新製品開発等、顧客ニーズをいち早く実現出来るようなマーケティング手法の改革を検討しています。「後を売る」としては設備の老巧化した既存船のシステムを交換することにより延命する「システム換装」事業や老朽化を予防する定期点検、船員のメンテナンス能力向上を目的とした技術研修等に注力しています。

また、オランダとシンガポール、中国には現地拠点を設置しており、それ以外の国にも提携のアフターサービス代理店を設けています。これにより、世界中どこでも対応が可能なグローバルサポート体制を採っております。

これからも、世界ナンバーワンの品質と信頼を提供するブランド企業を目指して、全社一丸となって業務に邁進して参ります。

福岡銀行
取締役頭取　**谷　正明**

60年代に大型船舶の自動化を予見し、いち早く制御機器・動力分野に進出され、現在では世界で最先端の技術や製品を有される企業となられました。これも、当社の先見性と技術力の高さの賜物であるとお察し致します。

また、小さなお子さんを持つ女性も安心して働けるよう工場内に託児所が開設される等、従業員のニーズに積極的に対応されていることも、当社の好調な業績を支える要因の一つではないでしょうか。これからも、世界ナンバーワンの品質と信頼を提供するブランド企業として、ご発展されることを祈念致します。

工場見学の様子

ＶＭボードの説明

託児所「ラッコランド」

計装システム製造の様子

完成直前の計装システム

左から中津留豊浦製作所長、近藤社長、谷頭取、坂本支店長、小林グループリーダ

TOPに聞く!

# 宮島醤油 株式会社

代表取締役社長

# 宮島 清一氏

■創　　業：1882年６月　　■設　　立：1950年５月
■所 在 地：佐賀県唐津市　　■資 本 金：4,500万円
■従 業 員：635名
■事業内容：各種調味料・加工食品類の製造・販売
（醤油、味噌、食酢、各種ソース、粉末スープ、液体スープ、焼肉のたれ、めんつゆ、ドレッシング、スパイス、缶詰、レトルト食品、冷凍食品等）
■事業拠点：佐賀県唐津市（本社、工場）、栃木県宇都宮市（工場）、福岡、北九州、熊本、佐世保、佐賀、広島、名古屋、東京（営業所）

## 海運業から醤油醸造業への転身

―当社の創業者である七世宮島傳兵衛は、今から128年前の1882年（明治15年）、佐賀県唐津市に醤油と味噌の醸造所を作りました。当社ではこの年を創業年としています。

徳川時代の宮島家は水産業や炭鉱業を営んでおり、若き七世宮島傳兵衛も唐津炭田の石炭を関東・関西に届ける遠隔地海運業を行っていました。しかし、1877年（明治10年）に伊豆半島沖で起こした海難事故をきっかけに、リスクの高い遠隔地海運や石炭採掘事業よりも、日用品である醤油や味噌を製造することこそが安定した商売になると考え、事業転換を図ったのです。

## 業界に先駆け、加工食品事業で多角化

―戦後の新法下での株式会社設立は1950年（昭和25年）です。60年代になると業界に先駆けて、ソースやスープ等の製造に着手しました。89年（平成元年）にはレトルトパウチ食品等の生産拠点として唐津市内に妙見工場を新設。00年（平成12年）には、外資系企業であるハインツ日本の宇都宮工場を買収し、首都圏に向けて業務用ソース類の大量供給を始めました。こうして確立した３工場体制により、宮島醤油の調味料、加工食品事業は全国展開が可能となりました。

当社では全社一元リアルタイム管理の情報システムを導入しています。このシステムにより、例えば妙見工場では、営業担当が受注データを送信すると、データの内容に応じて随時、生産・出荷計画が立てられます。必要な原材料を自動的に算出して生産が行われる一方、すべての原材料と製品在庫について、ロットごとに入庫日、製造日、賞味期限等が把握されています。このシステムによって効率的な生産活動が可能となり、妙見工場では三千種類以上の食品を作り出しています。

## 未来を見据えた「技術立社」の実現に向けて

―競争力のある会社を作るには、新技術の開発と技術の高度化に挑戦する姿勢が大切だと私は考えています。当社では、こうした姿勢を「技術立社」と呼んで経営理念に掲げるとともに、その実現に向けて「教育」「基礎研究」「商品開発」に取り組んでいます。

教育については、04年（平成16年）から工場間交流研修を実施しており、唐津と宇都宮の工場から相互に約３ヵ月間、違う工場に出向させています。住み慣れた地元を離れて過ごす事で視野を広げると同時に、研修終了時には出向先への改善提案を義務付けることで、業務の改善に役立てています。

また、05年（平成17年）には社内学校「宮島技術学校」を開校し、物理化学、食品加工学、及び微生物学を１年間学ばせています。私も物理化学の講師として、生産現場に即した話題を盛り込みながら講義を行っています。

基礎研究と商品開発については、07年（平成19年）に基礎研究室を新設し、研究内容の生産への応用を目指している一方で、佐賀大学やからつ大学交流連携センター等との共同作業にも取り組んでいます。その中には、地場の農作物を使って新商品を開発する「地産地工」事業もあります。

## 人材に期待すること

―当社の従業員に期待していることは、「難しいと感じる課題に直面したとき、簡単に諦めず、粘り強く追求すること」です。最近の若い人たちは簡単に諦めやすいと個人的には感じていますが、それは知識や経験の不足から来るものも大きいように思えます。

当社は、従業員の成長を会社の

重要課題と位置づけており、従業員の成長に支えられて前進する企業を目指しています。その成長を促す手段として、前述の「宮島技術学校」や「工場間交流研修」に取り組んでいます。研修等の結果、着実に知識や経験の蓄積による「引き出し」が増えることで、様々な場面で応用が効くようになり、各自の成長が本人だけでなく我々も実感出来るようになってきています。今後も引き続き、従業員のやる気をサポートして行こうと思います。

## 農業と共存共栄出来る会社を目指して

ー今年4月、名古屋にある食品メーカーのレトルトカレー等の加工食品事業を買収し、東京及び名古屋に営業所を開設しました。こうして、当社が手薄だった地区での営業を強化しています。

但し、老舗として受け継いできた発酵醸造技術を基盤とする姿勢は変わりません。変化の激しい時代ではありますが、それを乗り切る為の「技術立社」であり、老舗の伝統を守ると同時に、競争力のある企業作りに取り組んでいきたいと考えています。

今後は独自の発酵技術と食品加工技術に磨きをかけ、「宮島にしか出来ない、宮島だから出来る」と言われる商品の開発に注力します。さらに、地元で一生懸命農業に取り組んでいる農家の方々とも協力し、産学に「農」を加えた連携で、佐賀県内で原材料の生産から加工、更には研究開発といった「地産地工」を推進し、それを通じて地域社会に貢献したいと思っています。今夏には、地元名産の佐賀牛をふんだんに用いた「佐賀牛カレー」の発売を予定していますし、来年夏には佐賀県原産の紫黒米(しこくまい)を用いた醸造酢も食卓にお届け出来る予定です。

地域に根ざし、地域の農業強化に貢献する企業を目指し、全社員一丸となって頑張って参ります。

福岡銀行
取締役頭取　**谷 正明**

老舗の伝統的な「発酵醸造技術」を代々受け継がれている一方、「技術立社」の実現に向けて、先進的な技術の開発やシステムの導入にも積極的に取り組まれ、なおかつ着実な成果を収めていらっしゃることや、研究に必要な設備や文献も充実しており、大変感服致しました。

これからも、独自の発酵技術の活用等に加えて、産学農での連携による「地産地工」への取り組み等を通じ、新たな商品を開発していかれることを楽しみにしています。

佐賀県産の原料にこだわった「佐賀のしょうゆ」「佐賀無添加みそ」

妙見工場の様子

醤油のボトル充填工程の説明

図書室に並ぶ研究関連の書籍

基礎研究室での説明

左より亀井支店長、宮島相談役、宮島社長、谷頭取、宮島会長

TOPに聞く!

# 繊月酒造 株式会社

代表取締役社長

# 堤 正博氏

■創　　業：1903年10月　　■設　　立：1950年10月
■所 在 地：熊本県人吉市　　■資 本 金：1,500万円
■従 業 員：40名
■事業内容：焼酎製造・販売業
■事業拠点：熊本県人吉市（本社・工場）、熊本県熊本市、福岡市博多区（営業本部）

## 人吉球磨地域で愛飲されてきた「球磨焼酎」

―当社は、1903年(明治36年)から続く「球磨焼酎」のメーカーです。「球磨焼酎」とは、米麹と球磨川の伏流水(河川の底部等で自然濾過された上質な水)を原料としている焼酎のことを言い、95年(平成７年)にはWTO(世界貿易機関)による「地理的表示の産地指定」を受け、産地呼称が可能となりました。これにより国際的なブランドとして認知され、世界の銘酒の仲間入りを果たしています。このような産地呼称ができるのは、海外で代表的なものはイギリスの「スコッチ」やフランスの「コニャック」等があり、我が国では「球磨焼酎」に加えて、長崎県の「壱岐焼酎」や沖縄県の「琉球泡盛」、鹿児島県の「薩摩焼酎」の４つに限られています。

創業のきっかけは、もともと初代堤治助が養子として来た先が醤油の製造を行っていたことから、そこで醸造を学び、独立して焼酎製造を始めたのが始まりです。当時は、初代社長の名前から取って「治助焼酎」として人吉球磨地域の人々から愛飲されていました。やがて２代目治助の時代に変わり、50年(昭和25年)には法人成りし、「株式会社堤酒造本店」を設立。その後東京や大阪、福岡等へと積極的な営業展開を行い、焼酎「峰の露」がヒット商品となったことから、64年(昭和39年)に社名を「峰の露酒造株式会社」としました。82年(昭和57年)には私が３代目の社長に就任するとともに新商品「繊月」を発売しました。三日月より細い月の意である「繊月」という名称は、人吉城の別名である繊月城から戴きました。これは私も大好きな名前でしたし地域にふさわしいブランドとして命名したものです。まろやかな口当たりで旨みのある味わいとともに、地元に所縁のある銘柄であることや繊月という繊細なイメージ等が好評を得て、当社の看板商品となっています。2003年(平成15年)には創業100周年を迎え、翌年には、「峰の露酒造イコール繊月」というイメージが広く定着していたことから、かねてより念願であった「繊月酒造株式会社」へ社名変更しました。

## 初代から続く当社だけの杜氏による製造

―焼酎の製造には、その酒造りの長となる杜氏の存在が欠かせません。南九州では、杜氏集団と呼ばれる酒造りの専門家が、ほとんどの蔵で仕込みをして回るのが一般的でした。しかしながら当社では創業当初から、腕の良い杜氏を雇って当蔵の専属の杜氏として製造を始めました。そしてその杜氏が弟子を取り、仕込みの手法を教え、その弟子の中から優秀な者を次の杜氏に選ぶという方法で、今日まで６代に亘り当社独自の技術を継承しています。中でも42年(昭和17年)に３代目の杜氏となった淋豊嘉は、技術の研鑽に努め、当時の労働大臣(現在の厚生労働大臣)より卓越した技能を持つ者として、78年(昭和53年)焼酎業界で初の「現代の名工」に表彰されました。このことは、淋杜氏の焼酎に対する真摯な取り組みの結果であるとともに、私どもが蓄積してきた製造技術が評価されたものとして喜ばしく思っています。

球磨焼酎は、この時代まで長期間の熟成(いわゆる貯蔵)という概念はなかったと聞いています。しかし３代目杜氏は、「球磨焼酎は寝かせるほどに旨みを増す」との考えから貯蔵を始め、その頃から土甕で貯蔵した古酒は40年以上経っています。現存するものは僅かですが、その中から一甕分を、今年４月に「古酒繊月」として限定発売を致しました。この古酒を世に出すことで、球磨焼酎の歴史と味の奥深さを知って頂ければと思います。

## 地域への恩返し

―当社は、「お客様に歓んでもらえる焼酎造り」をモットーとしています。

私が社長に就任する以前は、蔵への自由な出入りは禁止されており、どちらかと言えば閉鎖的なところがありました。そこで私は、球

磨焼酎への理解を深めて頂きたいと考え、焼酎の製造過程をお客様が自由に見学出来る工場を建てました。また、見学には必ず案内の者が製造工程の説明を行い、多くの銘柄の試飲も出来るようにしました。今ではずいぶん見学出来る蔵が増えていますが地域のお客様に歓んで頂く為のひとつの活動として、いち早く取り組んできました。

また、私自身も“地域に支えられてこそ今日がある”との思いから、「地産地消の応援」と「地域貢献」にも取り組んでいます。

地産地消の応援については、熊本県菊鹿町の無農薬合鴨米を使った「さきもり」に始まり、芦北町の大関米で造った「葦分（あしきた）」、日本一の水質を誇る川辺川の水と米を使用した「川辺」などに加え、県外では岩手県や千葉県など、それぞれの地域で獲れたとてもいい米で、今では全国９地区の焼酎を製造し、地元の方々に提供しています。

また、毎年５月には地域の皆様への感謝の気持ちを込めて、社員とボランティアによる「繊月まつり」を開催する等、地域貢献に努めています。このイベントは、手作りの催事として、これまで20年以上続けてきました。そして、その売上を地域の学校や施設へ全額寄付し、役立てて頂いています。

さらに今年６月には、本社敷地内に工場見学や焼酎の試飲、お土産物の購入も出来る「繊月城見蔵」を新設しました。多くの方に足を運んで頂き、繊月の名前の由来となった繊月城や球磨川を望みながら、この地の歴史に触れ、焼酎のことも知って頂きたいと思います。

## 球磨焼酎を全国へ、世界へ

－当社は杜氏たちの独自の技術の継承、そして新たなる研究を進め、全て米焼酎で多くの銘柄を造っています。中でも、国の１級河川水質ランキングで４年連続１位に選ばれた川辺川の水と相良（さがら）村産の米を原料とした「川辺」や、赤シソを原料に球磨焼酎で仕込んだ女性向けのリキュール「恋しそう」は大変人気が高まってきています。

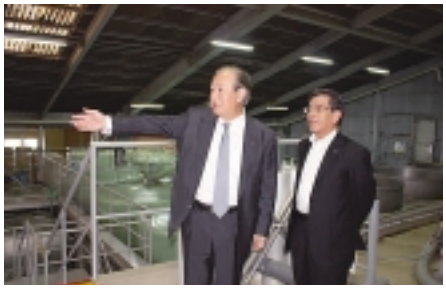
代表銘柄「繊月」に続くこのような商品を、国内での努力はもとより、香港やシンガポール、北米など、日本人が多く居住し、日本料理が広く浸透している地域にも向けて、球磨焼酎のＰＲおよび販売も進めています。これからも先代から受け継いだ球磨焼酎の文化が広く浸透されるよう、ブランド価値の向上とともに地域の発展に少しでも貢献出来ればと思います。

熊本ファミリー銀行
取締役頭取　**林　謙治**

人吉球磨地区に古くから伝わり、現在では国際的なブランドとなった「球磨焼酎」を、当社では、自社の杜氏によってその味や独自の製造技術を今日まで守り伝えてこられました。また、地産地消の焼酎造りや地域のためのイベントの開催等を通して、地域振興にもご尽力されており、そのご活躍振りに敬服致しました。これからも、球磨焼酎がより多くの方に愛飲され、また当社が地域とともに発展されますよう祈念致します。

人気商品「恋しそう」「峰の露」「繊月」「川辺」

繊月城見蔵での商品説明の模様



工場案内風景

繊月城見蔵外観

繊月城見蔵から臨む繊月城址

左より永江支店長、堤社長、林頭取、堤常務

# 株式会社 三浦工業所

代表取締役社長

## 三浦 学氏

■創　　業：1952年７月　　■設　　立：1958年10月
■所 在 地：長崎県長崎市　　■資 本 金：2,800万円
■従 業 員：180名
■事業内容：各種プラント、機械設備の据付・解体・点検・補修工事、鋳鍛造製品の補修工事、製缶鉄工、給排水設備工事
■事業拠点：長崎県長崎市（本社）、長崎県諫早市（工場）、北九州市戸畑区（事業所）

### 三菱重工業長崎造船所の下請企業として創業

－当社は、各種プラントや機械設備の据付工事、解体工事、およびその設備に係る点検や補修等のほか、プラントに使われる鋳鍛造（いたんぞう）製品の補修工事を行っています。1952年（昭和27年）に、三菱重工業長崎造船所の下請企業として創業し、今日まで主に原動機関連の生産工事やクレーンなどの機械設備の点検、修理に携わって参りました。現在でも同社からの受注が当社の売上の中心となっております。その後、71年（昭和46年）に受注先の移転に伴い北九州市に北九州出張所を開設し、78年（昭和53年）からは長崎市を中心に公共工事にも進出致しました。83年（昭和58年）には製缶工事等の業務を拡充するために諫早中核工業団地内に諫早工場を建設しました。こうして大手企業のパートナー企業として、また様々な受注に対応する為の体制を整備しながら、業務を行っております。

また、70年代後半には環境分野へ進出しましたが、これは先々代が環境への意識が特に強かったことに加え、事業拡大のために新たな分野への進出も考えていたことによるものです。当初は脱臭装置や汚泥処理装置等の環境機器を製造していましたが、今ではごみ焼却炉や下水処理場など、長崎県下の市町村の生活インフラに関する分野の仕事も受注出来るようになり、公共工事を通じた環境分野への取り組みを続けています。

### 個人の能力を結集し「三浦工業所の力」とする

－当社は、「顧客満足の優先」「個人の能力を結集した総合力で勝負する」を経営理念に掲げています。

当社のお取引先は、大手メーカーのほか、長崎県内の市町村に至るまで多岐に渡っています。お取引先から発注を頂くために当社にとって必要なことは、求められる技術水準に応えられる、あるいは満足頂ける製品を製造出来ることであり、常に「顧客満足の優先」を念頭に置いて業務に当たるように指導してきました。

また「個人の能力を結集した総合力で勝負する」ことについてですが、企業の中においては、お取引先から発注を承る営業担当者、その注文に応じて対応に当たる現場の従業員、現場の進捗管理や伝票、帳簿の作成など会社全体の動きを統括する総務担当者等、多くの従業員が働いています。このうち誰が欠けても仕事は進みません。したがって、それぞれの担当者が他の担当者の立場を思いやること、つまり常にお互いに「感謝」の気持ちを持って仕事に臨むことが必要だと考えます。このように各人の思いを繋ぎ、連携を強めることが「三浦工業所の力」になると思います。さらに各人が業務に役立つ資格を取得したり、技術向上に励んだりと、それぞれの持ち場で「スペシャリスト」となるように業務に取り組めば、当社の力をより一層強化することが出来ると思います。

これからも、個人の能力を高め結集することで、私達は他社に負けない競争力を身に付けたいと考えています。

### 技術力を高め、組織を強化する

－機械設備の修理、保全等お取引先からの受注を通じて、当社では補修等に関する精緻な技術を蓄積しています。それだけでなく、作業等の対応に当たる担当者はそれぞれの現場においてどのような工夫や対応が必要か等、その場に応じたアイデアも同時に習得してきました。こうして現場での経験を重ねてきたことにより、製品等の品質だけでなく、経験から生まれたアイデア等を基に迅速な判断や対応が出来ることが、お取引先

にご満足頂ける事業の遂行に繋がっていると確信しています。

技術の継承に当たっては後進となる人材が必要となりますが、景気の低迷等もあり、採用を手控えたいと考える時期もありました。しかし、当社がお取引先からの信頼にお応えする手段は工事の他にないことから、将来の技術継承者の採用についてはある程度継続しています。また、熟練工の指導の下、実際の現場で若手従業員に経験を多く積ませることにも注力しました。お陰様で着実に技術を後継する人材の確保、育成が進んでいます。

これからは、技術水準のひとつの証となるＩＳＯ9001の認証取得を目指したいと思います。ＩＳＯ9001の認証取得はそれまでの過程も重要ですが、「お取引先のニーズに対し技術面で的確に応えられる」という当社が目指す組織の強化のためにも必要であることから、是非とも取得したいと考えます。

## 地域の枠組みにとらわれない営業拠点の拡大を目指して

－当社は早くから環境関連の事業に取り組んだ結果、およそ40年分のノウハウが蓄積出来ており、そのことが当社の強みであると考えます。環境関連の事業については、社会的なニーズの高まりもあることから、引き続き事業の拡大を図っていく予定です。

また、これからの当社の事業展開としては、まず事業基盤を強化した上で、自社の保有する技術を軸に、徐々に関連する業務等にその幅を広げていき堅実な経営を目指したいと思います。そして、当社の発祥の地である長崎、そして九州という枠組みにとらわれず、これまでの経験に裏付けられた技術を持って営業拠点を拡大し、お取引先とともに成長していきたいと考えます。今後もお取引先の信頼にお応えするべく、全社員が力を合わせて精進していく所存です。

親和銀行
取締役頭取　**鬼木 和夫**

当社は、大手企業のパートナー企業としての確かな実績に加えて、現場で培われたノウハウや技術を基礎に、下水処理場の機械設備のメンテナンス等、長崎県内の市町村の生活インフラに関する業務も受注されています。これは、ひとえに技術力と組織力の向上に努められたことの賜物ではないでしょうか。これからも、社員の皆様方と共に、堅実経営の実践により益々ご発展されますことを祈念致します。

本社ビル

シャーリング作業

鍊早工場内での作業の説明

点検作業

設備のメンテナンスを行った長崎市中部下水処理場

据付工事用の排水ポンプ

左より三浦社長、鬼木頭取、本村鍊早事業部長、坂井支店長